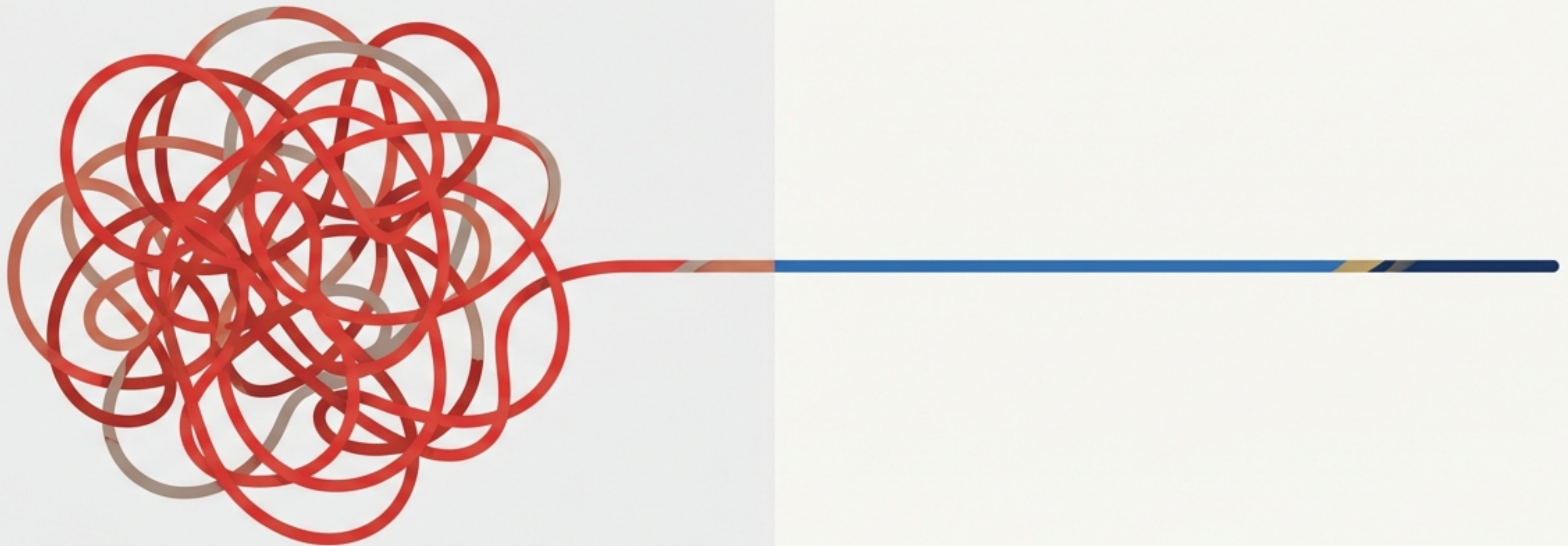


FXで勝てない時期の「原因」と「改革」

知識や手法を足すのではなく、「土台」を固めて勝てるトレーダーになる方法



「全然勝てない...」 その悩み、痛いほどわかります

「あー、あるあるだな」と思いながら読んでください。僕もその時期を経験しました。

このスライドでは、勝てなかった時期の「原因」を並べ、そこから「何が変わったのか」を逆算してまとめました。

勝率の高い手法や「おいしい話」ではありません。これは、トレードを安定させるための「土台」の話です。



最大の原因：検証不足が「迷い」を生む

The Losing Way



ルールの勝率や連敗数を
数字で把握していない。
「なんか不安…」と思
いながらトレードし、
ルールを信じきれない。

The Reform

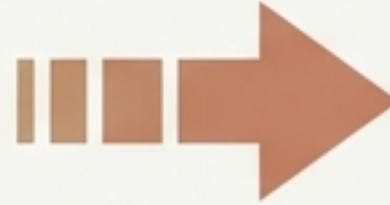


100トレードを1セットと
して検証する。

「検証をして初めて、ル
ールは信じられるものにな
る」。数字で結果を知
ることで、連敗しても動
揺しなくなります。

※ 100トレード未満は、野球で言えば「たった1打席」の結果と同じ。統計的な信頼性には「数」が必要です。

「知識を増やす = 勝てる」ではない



Input Overload (Losing Habit)

勉強熱心になりすぎて情報を詰め込む。
「知っている」だけで、実際のチャートで
「できる」状態になっていない。



Output Focus (Winning Habit)

インプットを減らし、
アウトプット（検証・デモ）を増やす。

動画を見て「なるほど！」と思っても、リアルで同じ判断ができなければ意味がない。
知識を「使えるスキル」に変えるには、反復練習しかありません。

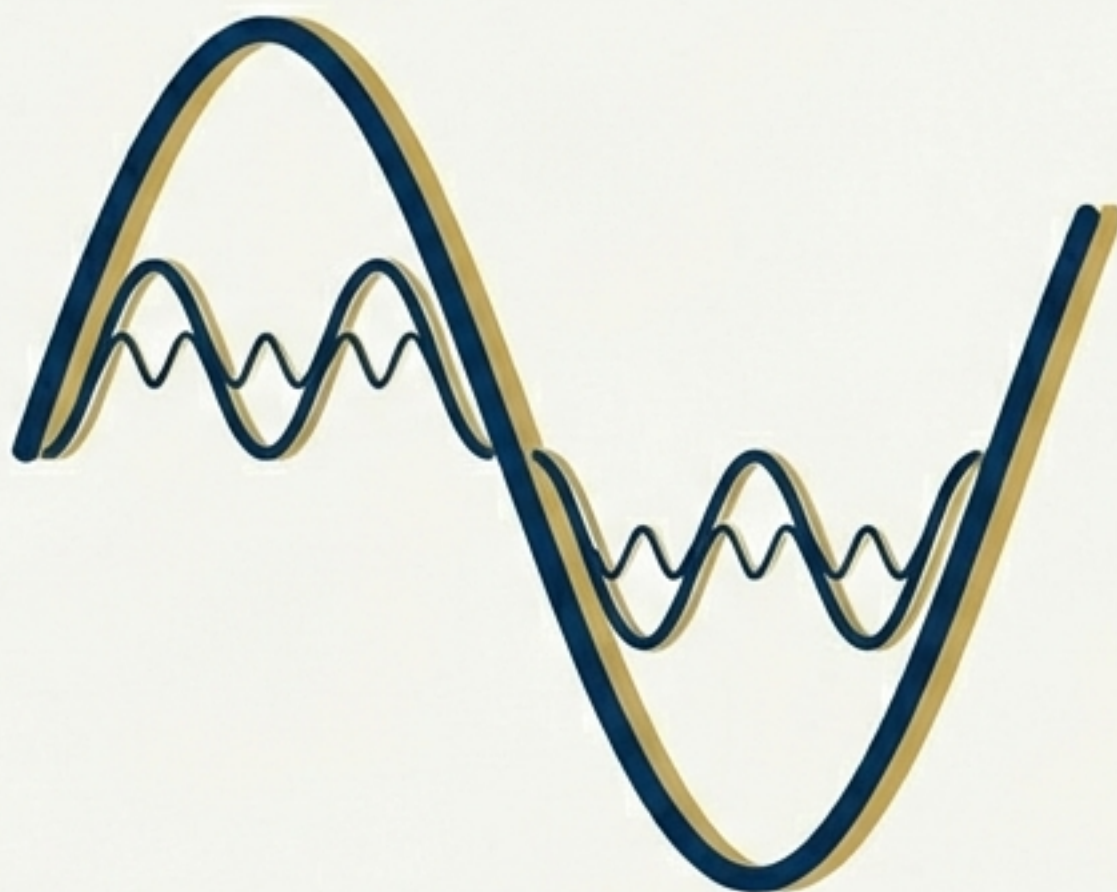
マルチタイムフレーム分析の「構造」を知る

The Losing

The Losing Habit:

上位足と下位足を別々のものとして見てしまう。

上位足 (Higher Timeframe)



下位足 (Lower Timeframe)
(NotoSansJP-VariableFont_wght.ttf)

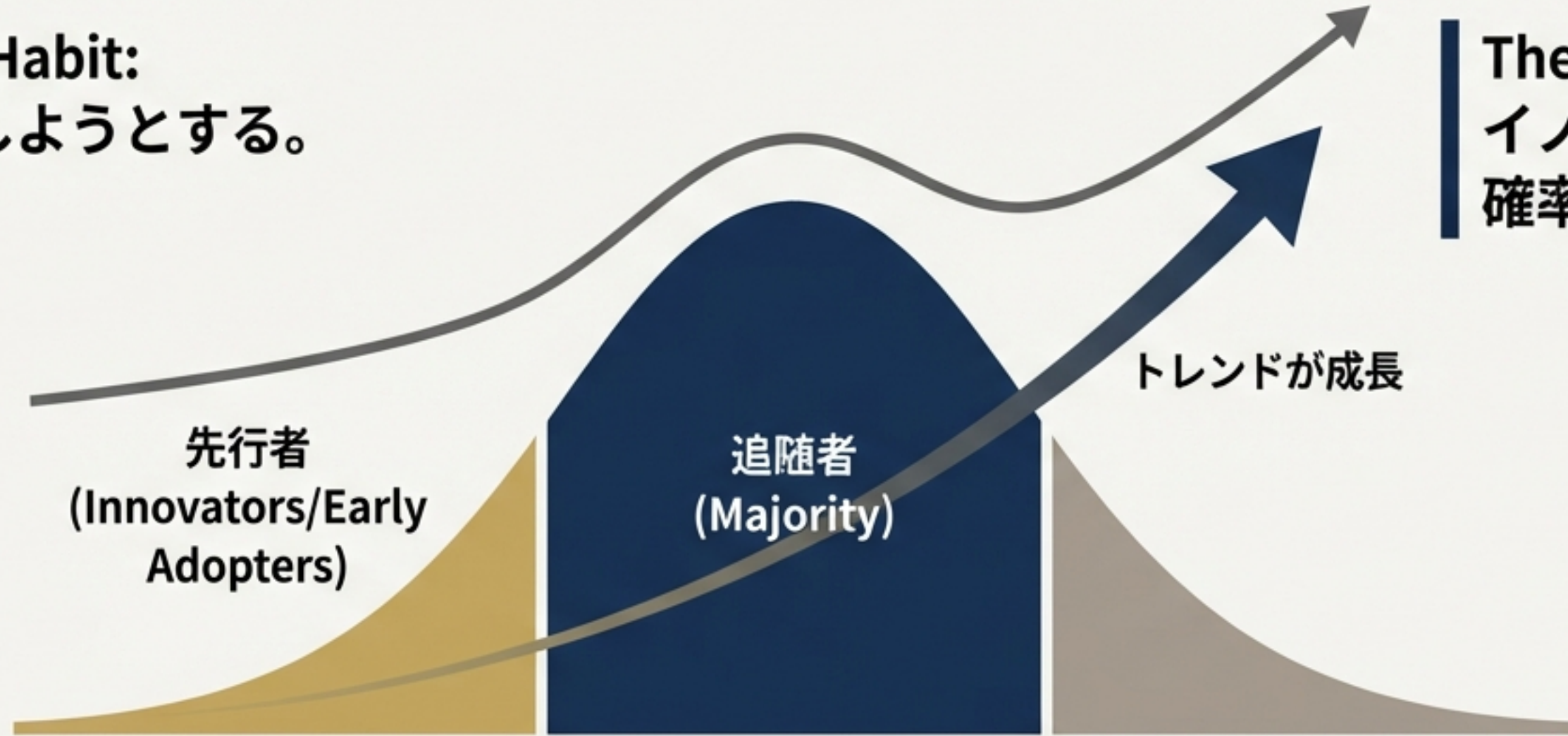
The Reform:

エリオット波動（フラクタル構造）の視点を持つ。
相場は「入れ子構造」です。
大きな波の中に、同じ形の小さな波がある。この視点を持つことで、時間足を上下に行き来する感覚が掴めるようになりました。

「未来を当てる」から「確率に乗る」へ

The Losing Habit:
相場を予言しようとする。

The Reform:
イノベーター理論と
確率論で考える。



少数の先行者が動き、追随者が増えてトレンドができる。
この構造が繰り返されるから「確率の偏り」が生まれます。

結果：方向性のミスが激減し、負けは単なる「タイミングの問題」になりました。

感覚頼りのエントリーが「再現性」を奪う



The Losing Habit:

「なんとなく」でエントリーし、たまたま勝つ。
その成功体験が、根拠のないトレードを正当化してしまう。

The Reform:

「同じ判断を繰り返せる基準」を持つ。

Key Takeaway: 基準は抽象的でもいい。大事なのは「毎回同じところを見ているか」。
幸運な勝利よりも、再現できるルールを優先しましょう。

インジケーターは「引き算」する

Before: Complexity & Noise



The Losing Habit: チャートが情報過多。
「インジケーターを増やせば精度が上がる」という
誤解。シグナルの矛盾で迷いが増える。

After: Clarity & Focus



The Reform: ローソク足を主役に戻す。

多くのインジケーターはローソク足の加工品であり、遅行します。本体（ローソク足）を直視し、補助としてツールを使うことで、チャートは劇的に見やすくなります。

理屈よりも「自分の検証結果」を信じる



The Losing Habit:

「この理論は正しいのか？」「ダウ理論の定義は？」と理屈や一般論にこだわりすぎる。



The Reform:

「検証上、問題がないか」を唯一の基準にする。

一般論はあくまで出発点。最終的な答えは、教科書ではなく「自分の検証データ」の中にあります。

スキャルピングという「遠回り」

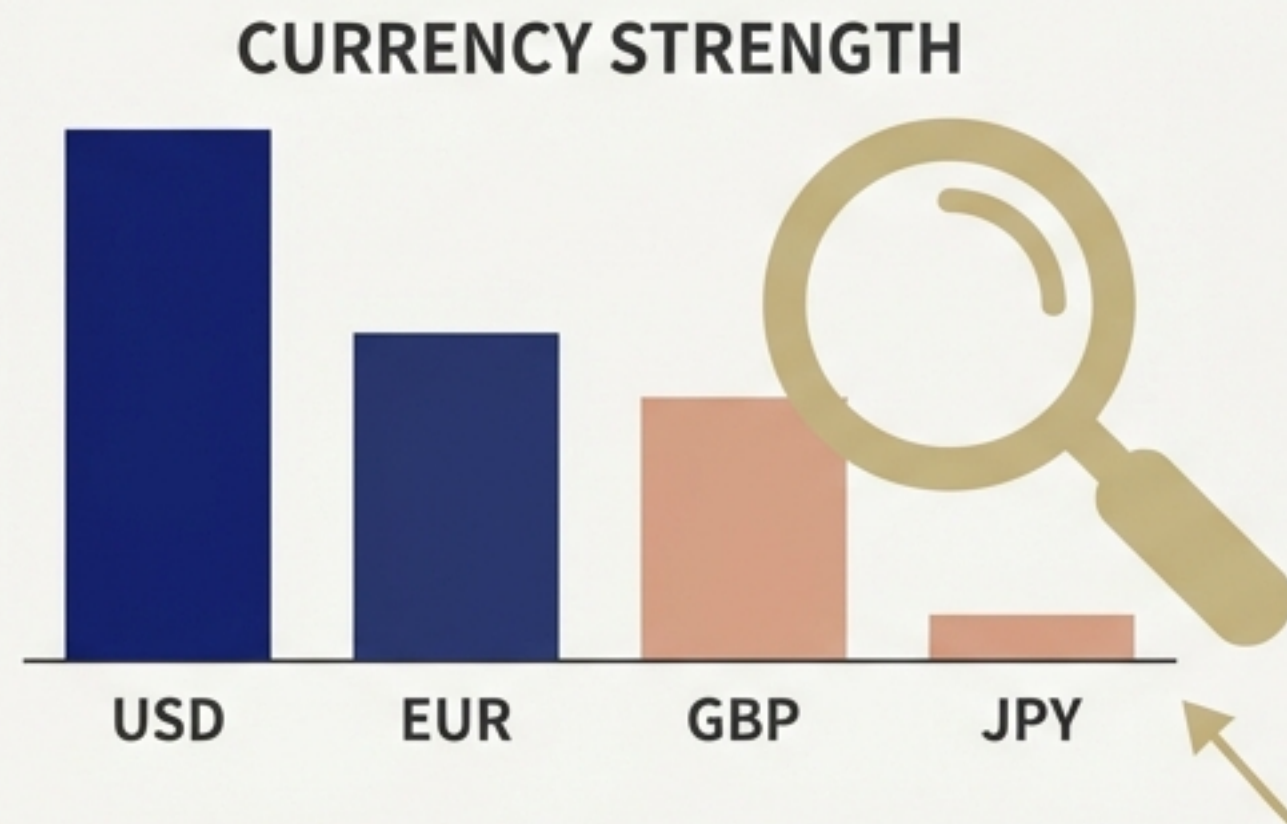


The Losing Habit: 「短期売買こそ王道」と思い込み、判断スピードが追いつかずに消耗する。相場の全体像が見えなくなる。

The Reform: スイングトレードで「考える時間」を確保する。

スキャルピングは楽しいですが、まずは少し長期の視点で「相場の大きな動き」を理解してから短期に入るのがおすすめです。

個別チャートだけでなく「通貨強弱」を見る



The Losing Habit:

目の前のチャートの形だけでエントリーし、
「なぜこの通貨ペアなのか」という根拠が弱い。

The Reform:

今、どの通貨が買われ、どれが売られている
か（全体像）を把握する。

通貨強弱を見ることで、無駄な逆行や方向性のミスが明らかに減ります。
マルチタイムフレーム分析とも相性抜群です。

再現性は「引き算」から生まれる

Complexity (複雑) → Confusion (迷い)



Simplicity (単純) → Stability (安定)

勝てない頃は「何かが足りない」と足し算ばかりしていました。
しかし、成績が安定したのは「やることを減らし、判断をシンプルにしてから」です。

「FXは、複雑にすればするほど難しくなる」

勝てるようになるための「変化」リスト

- 1 検証：100トレード1セットでデータを取る。
- 2 学習：インプットよりアウトプット（反復練習）。
- 3 視点：フラクタル構造と確率論を理解する。
- 4 チャート：インジケーターを減らし、ローソク足を主役にする。
- 5 環境：スイング気味に、通貨強弱で全体を見る。

焦らず、自分のペースで「土台」を固めよう



無理に全部を一気に変える必要はありません。
「何かを追加する」のではなく、「土台を固めてシンプルにする」こと。
リスク管理だけは忘れずに、一つずつ確認していきましょう。
きっと、少しずつ変化が出てくるはずです。

Thank you for reading.